



しくじり先生から学んでほしい ～心をはぐくむ集会～

6月10日(水)、「心をはぐくむ集会」を開きました。この集会は、新年度に赴任した職員が、生徒に伝えたい思いや願いを、輪番で語る20年以上続いている集会です。私も昨年と平成17年に話をしました。今回はT先生が「しくじり先生から学んでほしい」との演題で、自身の中学時代の野球部での思い出をもとに、子どもたちに伝えたい思いを熱く語ってくれました。

◆T先生の話(要約)

中2の秋に監督からキャプテンに任命された。当時の伊万里中野球部は、同級生22名、下級生22名の大所帯で、チームをまとめるのがとても大変だった。伊西地区内では強い方だったが、青嶺中はそれ以上に強かった。いよいよ最後の中体連抽選会。青嶺中とは別パートになってほしいと強く願った。監督から1回戦の相手が「山代中」だと告げられた。このとき、私やチームメイトは、「青嶺中でなくてよかった」「山代中でよかった」と正直思った。そして初戦を迎えた。1回表に3点を先に取られ「やばい」と思った。チャンスで自分に回ったが打てない。しかし、その後の山代中の攻撃を0点に抑え、ピッチャーをリードした。7回終了時点で3対3の同点。8回からの特別ルール(ノーアウト満塁)で山代中の攻撃を1点に抑えた。伊万里中は1番打者からの攻撃だったがショートフライで1アウト。2番打者のスクイズがキャッチャー前に転がりダブルプレー…ゲームセット。中学最後の夏、山代中に4対3で敗れ、初戦で涙をのんだ。

私のようにならないためには、しっかり「準備(努力)」をすること。そして、勝負の世界に「絶対」はないということ。勉強も部活も、「努力」ほどきついものはない。いつも弱い自分との戦いで、楽な方に逃げたくなる毎日(中学時代)だった。今でもそういう日はある。みなさんには、準備という名の「努力」をおろそかにしないでほしい。もし、結果がうまくいかなくても、その努力は「一生の財産」になる。まずは、明日からのテストを頑張ってください。

T先生の話真剣に聞きながら、子どもたちは今の自分の姿と重ね合わせていたようでした。

大人が語る自身の体験談は、良くも悪くも子どもにとって身近な手本になります。特に失敗談は、これから生きる子どもたちの心に強く残り、何年も何十年も役に立つ「生きた教科書」になるはずです。子どもの将来を期待するあまり、強い口調で叱責することもあります。大人も昔はこうだったんだよ、だからこうしたらいいと思うよ…と、子どもの失敗に優しく寄り添いながら、共に成長していくことの大切さを、改めて感じました。学校としても、そのような関わりを大切にしていきたいと考えています。

校長室より 失敗の先にあるもの

誰でも、大人になるまでの過程で、たくさんの失敗を経験します。そして実は、大人になった今も、失敗はなくなりません。うまくいかなかったこと、悔しかったこと、「あの時こうしていれば」と思うこと。その一つ一つが、自分を少しずつ成長させてくれています。

大人とは、失敗しなくなる存在ではありません。失敗を重ねながら、その意味を考え、次に生かそうとし続けている存在です。だから、みなさんも失敗を恐れる必要はありません。むしろ、挑戦したからこそ生まれる失敗を大切にしてほしいと思います。今日うまくいかなかったことも、明日の自分をつくる大切な一歩です。

学校には「しくじり先生」がたくさんいます。(もちろん、私もその一人です) (^)/